

# 吉田町財務書類5か年の推移 (平成20年度～平成24年度)

～総務省方式改訂モデル～



吉田町企画課

## 目 次

はじめに	1
貸借対照表の5か年の推移	2
行政コスト計算書の5か年の推移	3
純資産変動計算書の5か年の推移	4
資金収支計算書の5か年の推移	5
財務分析の5か年の推移	6
資産の増減額	6
有形固定資産の行政目的別割合	6
純資産比率	8
社会資本形成の世代間負担率（将来世代負担比率）	8
行政コスト対税込等比率	10
地方債現在高	10
地方債の償還可能年数	11
基礎的財政収支（プライマリーバランス）	12
行政コスト計算書内訳比率（性質別）	14
行政コスト計算書内訳比率（目的別）	15
受益者負担比率	17
おわりに	18

はじめに

総務省は、平成 18 年 8 月「地方公共団体における行政改革のさらなる推進のための指針」により、地方公共団体に「発生主義・複式簿記」による企業会計的手法の導入を求めました。

また、各地方公共団体においては、取り組みが進んでいる団体、都道府県、人口 3 万人以上の都市は 3 年後までに、取り組みが進んでいない団体、町村、人口 3 万人未満の都市は 5 年後までに、4 表の整備又は 4 表作成に必要な情報の開示に取り組むこととされました。

以上を踏まえ、当町においては、住民や議会、外部に対する財務情報の分かりやすい開示や財政運営、また、政策形成を行う上での基礎資料として、資産・債務管理や予算編成、政策評価等に有効に活用するため、平成 20 年度決算分から 4 表の作成を開始しました。

この度、平成 24 年度決算分の 4 表を作成し、5 か年経過し節目の年となることから、「吉田町財務書類 5 か年の推移」を作成するものです。

この、「吉田町財務書類 5 か年の推移」では、5 年間の有形固定資産、地方債残高、将来世代への負担比率、行政コスト等の推移など、当町の資産形成や財政状況の移り変わりや、当町がどの分野に重点を置いて事業を展開してきたのかを見ることができます。

## 貸借対照表の5か年の推移

(平成20年度～平成24年度)

(単位:千円)

借 方						貸 方					
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
<b>【資産の部】</b>						<b>【負債の部】</b>					
1 公共資産	68,477,622	68,520,270	68,055,161	67,425,791	67,562,685	1 固定負債	19,927,271	19,478,315	19,011,280	18,465,901	18,564,403
(1)有形固定資産	67,090,334	66,833,117	66,428,406	65,840,643	66,005,400	(1)地方債	18,605,218	18,099,450	17,675,593	17,096,803	17,193,750
(2)無形固定資産	10	10	10	10	10	(2)長期未払金	0	0	0	0	0
(3)売却可能資産	1,387,278	1,687,143	1,626,745	1,585,138	1,557,275	(3)退職手当引当金	1,322,053	1,378,865	1,335,687	1,369,098	1,370,653
2 投資等	2,709,218	2,739,630	2,419,859	2,361,681	2,372,397	(4)損失補償等引当金	0	0	0	0	0
(1)投資及び出資金	217,217	217,166	216,370	216,319	217,164	2 流動負債	1,332,968	1,350,397	1,357,686	1,385,450	1,275,643
(2)貸付金	28,406	30,175	31,935	31,806	30,635	(1)翌年度償還予定地方債	1,247,918	1,253,969	1,271,157	1,305,717	1,187,452
(3)基金等	2,168,859	2,172,002	1,840,998	1,767,565	1,792,148	(2)賞与引当金	85,017	85,321	80,299	79,670	83,420
(4)長期延滞債権	384,321	420,394	461,800	459,608	418,995	(3)その他	33	123	47	63	48
(5)回収不能見込額	△ 89,585	△ 100,107	△ 131,244	△ 113,617	△ 86,545	(4)未払金	0	10,984	6,183		4,723
3 流動資産	2,610,142	2,391,896	2,775,629	2,751,837	2,813,263	負債合計	21,260,239	20,828,712	20,368,966	19,851,351	19,840,046
(1)現金預金	2,424,313	2,215,675	2,626,491	2,608,560	2,698,468						
(2)未収金	226,893	220,445	196,508	180,614	142,708	<b>【純資産の部】</b>					
(3)その他	9,070	8,655	8,104	7,835	7,803	純資産合計	52,574,411	52,879,486	52,940,353	52,729,584	52,958,176
(4)回収不能見込額	△ 50,134	△ 52,879	△ 55,474	△ 45,172	△ 35,716						
4 繰延勘定	37,668	56,402	58,670	41,626	49,877						
資産合計	73,834,650	73,708,198	73,309,319	72,580,935	72,798,222	負債+純資産合計	73,834,650	73,708,198	73,309,319	72,580,935	72,798,222

## 行政コスト計算書の5か年の推移

(平成20年度～平成24年度)

(単位:円・%)

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
<b>経常行政コスト</b>	<b>111,933,577</b>	<b>100.0</b>	<b>12,500,252</b>	<b>100.0</b>	<b>12,470,077</b>	<b>100.0</b>	<b>12,900,365</b>	<b>100.0</b>	<b>12,793,671</b>	<b>100.0</b>
1 人件費等にかかるコスト	1,676,754	14.1	1,470,281	11.8	1,633,720	13.1	1,623,846	12.6	1,558,382	12.6
(1) 人件費	1,342,742	11.3	1,343,186	10.7	1,315,736	10.6	1,365,422	10.6	1,366,743	10.7
(2) 退職手当等引当金繰入等	248,995	2.1	41,774	0.3	237,685	1.9	178,754	1.4	108,219	0.8
(3) 賞与引当金繰入額	85,017	0.7	85,321	0.7	80,299	0.6	79,670	0.6	83,420	0.7
2 物件費等にかかるコスト	3,003,495	25.2	2,959,536	23.7	3,146,105	25.3	3,263,892	25.3	3,118,764	24.4
(1) 物件費	1,355,808	11.4	1,279,368	10.2	1,433,553	11.5	1,553,948	12.0	1,416,510	11.1
(2) 維持修繕費	46,488	0.4	47,089	0.4	71,069	0.6	65,014	0.5	51,650	0.4
(3) 減価償却費	1,601,199	13.4	1,633,079	13.1	1,641,483	13.2	1,644,930	12.7	1,650,604	12.9
3 社会保障給付費等にかかるコスト	6,726,356	56.4	7,547,153	60.4	7,152,267	58.2	7,505,969	58.2	7,669,160	59.9
(1) 社会保障給付	3,431,423	28.8	3,444,510	27.6	4,041,045	32.4	4,237,228	32.8	4,262,729	33.3
(2) 補助金等	3,059,024	25.6	3,884,497	31.1	2,823,100	22.6	2,941,383	22.8	2,967,996	23.2
(3) 他会計等への支出額	81,658	0.7	73,024	0.6	133,060	1.1	76,695	0.6	85,055	0.7
(4) 他団体への公共資産整備補助金等	154,251	1.3	145,122	1.2	155,062	1.3	250,663	1.9	353,380	2.8
4 その他のコスト	526,772	4.4	523,282	4.2	537,985	4.3	507,158	3.9	447,365	3.5
(1) 支払利息	453,973	3.8	440,698	3.5	422,688	3.4	407,082	3.2	386,884	3.0
(2) 回収不能見込計上額	49,758	0.4	56,152	0.4	82,623	0.7	11,923	0.1	7,657	0.1
(3) その他行政コスト	23,041	0.2	26,432	0.2	32,674	0.3	88,153	0.7	52,824	0.4
<b>経常収益</b>	<b>34,12,294</b>	<b>100.0</b>	<b>3,227,413</b>	<b>100.0</b>	<b>3,346,207</b>	<b>100.0</b>	<b>3,520,367</b>	<b>100.0</b>	<b>3,616,335</b>	<b>100.0</b>
1 使用料・手数料	191,000	5.6	185,294	5.7	188,694	5.6	190,255	5.4	198,645	5.5
2 分担金・負担金・寄附金	1,331,727	39.0	1,122,869	34.8	1,339,758	40.0	1,509,690	42.9	1,513,656	41.9
3 保険料	1,271,405	37.3	1,276,716	39.6	1,212,113	36.2	1,214,081	34.5	1,272,658	35.2
4 事業収益	576,193	16.9	574,987	17.8	586,653	17.5	589,141	16.7	594,295	16.4
5 その他特定行政サービス収入	21,782	0.6	16,477	0.5	18,989	0.6	17,204	0.5	37,081	1.0
6 他会計補助金等	20,187	0.6	51,075	1.6	0	0.0	496	0.0	0	0.0
<b>純経常行政コスト</b> (経常行政コスト-経常収益)	<b>8,521,083</b>		<b>9,272,834</b>		<b>9,123,870</b>		<b>9,379,998</b>		<b>9,177,336</b>	

## 純資産変動計算書の5か年の推移

(平成20年度～平成24年度)

純資産残高

(単位:千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
期首純資産残高	51,754,732	52,574,411	52,879,487	52,940,349	52,729,584
純経常行政コスト	△ 8,521,083	△ 9,272,834	△ 9,124,870	△ 9,379,998	△ 9,177,336
地方税	6,421,963	5,869,912	5,817,942	5,668,068	5,501,875
地方交付税	84,124	98,622	289,881	296,053	385,853
その他行政コスト充当財源	710,798	654,132	634,832	656,189	621,263
補助金等受入	2,047,072	2,619,074	2,502,055	2,557,560	2,899,075
公共資産除売却損益	16,058	5,030	△ 13,328	1,065	7,766
出資の受入・新規設立	17,952	12,034	741	591	4,068
資産評価替えによる変動額	△ 2,998	299,814	△ 59,613	△ 20,227	△ 37,047
無償受贈資産受入	45,793	22,105	13,226	9,934	23,125
その他	0	△ 2,814	0	0	△ 50
期末純資産残高	52,574,411	52,879,486	52,940,353	52,729,584	52,958,176

期末純資産残高の内訳

(単位:千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
期末純資産残高	52,574,411	52,879,486	52,940,353	52,729,584	52,958,176
公共資産等整備国県補助金等	12,738,328	12,572,976	12,315,638	12,075,140	12,244,945
公共資産等整備一般財源等	41,507,502	42,066,046	42,357,023	42,647,266	42,780,105
その他一般財源等	△ 1,746,215	△ 2,156,251	△ 2,082,636	△ 2,332,857	△ 2,392,987
資産評価差額	74,796	396,715	350,328	340,035	326,113

# 資金収支計算書の5か年の推移

(平成20年度～平成24年度)

(単位:千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
<b>1 経常的収支の部</b>					
人件費	1,570,811	1,527,827	1,535,617	1,570,146	1,553,077
物件費	1,350,548	1,257,852	1,384,576	1,575,768	1,425,077
社会保障給付	3,615,134	3,632,236	4,225,417	4,419,396	4,465,795
補助金等	2,246,859	2,863,754	2,259,487	2,316,516	2,815,279
支払利息	453,973	440,698	422,688	407,082	386,884
他会計への事務費等充当財源繰出支出	853,276	773,706	366,281	331,591	1,967
その他支出	63,911	67,021	132,507	124,849	92,074
支出合計	10,154,512	10,563,094	10,326,573	10,745,348	10,740,153
地方税	6,378,552	5,812,879	5,777,403	5,652,382	5,538,652
地方交付税	84,124	98,622	289,881	296,053	385,853
国県補助金等	1,715,338	2,344,943	2,316,612	2,319,536	2,214,645
使用料・手数料	190,764	185,020	185,134	188,092	197,137
分担金・負担金・寄附金	1,235,728	1,045,477	1,265,483	1,445,350	1,484,699
保険料	1,240,086	1,243,309	1,190,510	1,204,399	1,273,836
事業収入	567,235	591,383	581,106	592,877	587,312
諸収入	75,205	71,649	86,392	93,488	108,448
地方債発行額	250,302	350,000	400,000	344,726	350,000
基金取崩額	182,097	576,033	358,433	322,740	432,108
他会計繰入金等	20,187	8,020	0	496	0
その他収入	648,374	594,601	660,381	565,224	533,170
収入合計	12,587,992	12,921,936	13,111,335	13,025,363	13,105,860
経常的収支額	2,433,480	2,358,842	2,784,762	2,280,015	2,365,707
<b>2 公共資産整備収支の部</b>					
公共資産整備支出	2,374,075	1,388,836	1,331,756	1,096,461	1,846,195
公共資産整備補助金等支出	154,251	145,122	156,062	250,663	353,380
他会計への建設費充当財源繰出支出	12,434	723	0	0	0
支出合計	2,540,760	1,534,681	1,487,818	1,347,124	2,199,575
国県補助金等	331,729	274,126	185,443	242,599	684,430
地方債発行額	904,998	398,200	447,300	382,200	934,400
基金取崩額	0	0	0	4,310	2,019
他会計負担金額	0	0	0	590	0
その他収入	98,890	75,953	81,501	77,341	54,621
収入合計	1,335,617	748,279	843,887	707,040	1,675,470
公共資産整備収支額	△ 1,205,143	△ 786,402	△ 643,931	△ 640,084	△ 524,105
<b>3 公共資産整備収支の部</b>					
投資及び出資金	2,500	0	0	0	0
貸付金	900	2,100	2,100	1,200	0
基金積立額	543,902	60,029	781,766	221,832	287,613
定額運用基金への繰出支出	266	88	35	4,336	2,056
他会計等への公債費充当財源繰出支出	165,553	155,921	145,242	154,848	0
地方債償還額	1,386,955	1,247,918	1,253,969	1,271,156	1,305,718
その他支出	0	0	0	0	0
支出合計	2,100,076	1,466,056	2,183,112	1,653,172	1,595,387
国県補助金等	5	5	0	0	0
貸付金回収額	340,162	80,331	340	1,329	1,171
基金取崩額	900	2,100	102,100	1,200	0
地方債発行額	153,200	0	0	0	0
公共資産等売却収入	16,058	5,030	72,547	45,550	7,766
他会計負担金額	0	0	0	0	0
その他収入	4,363	4,009	△ 98,257	1,574	1,735
収入合計	514,688	91,475	76,730	49,653	10,672
投資・財務的収支額	△ 1,585,388	△ 1,374,581	△ 2,106,382	△ 1,603,519	△ 1,584,715
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
翌年度繰上充入金増減額	0	0	0	0	0
当年度資金増減額	△ 357,051	197,859	34,449	36,412	246,887
期首資金残高	1,478,372	1,121,321	1,319,180	1,353,625	1,390,037
経費負担割合変更に伴う差額	0	0	0	0	0
期末資金残高	1,121,321	1,319,180	1,353,629	1,390,037	1,636,924

## 財務分析の5か年の推移

### 1 資産形成度

#### (1) 資産の増減額

(単位：千円)

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
公共資産	68,477,622	68,520,270	68,055,161	67,425,791	67,562,685
投資等	2,709,218	2,739,630	2,419,859	2,361,681	2,372,397
流動資産	2,610,142	2,391,896	2,775,629	2,751,837	2,813,263
繰延勘定	37,668	56,402	58,670	41,626	49,877
資産合計	73,834,650	73,708,198	73,309,319	72,580,935	72,798,222

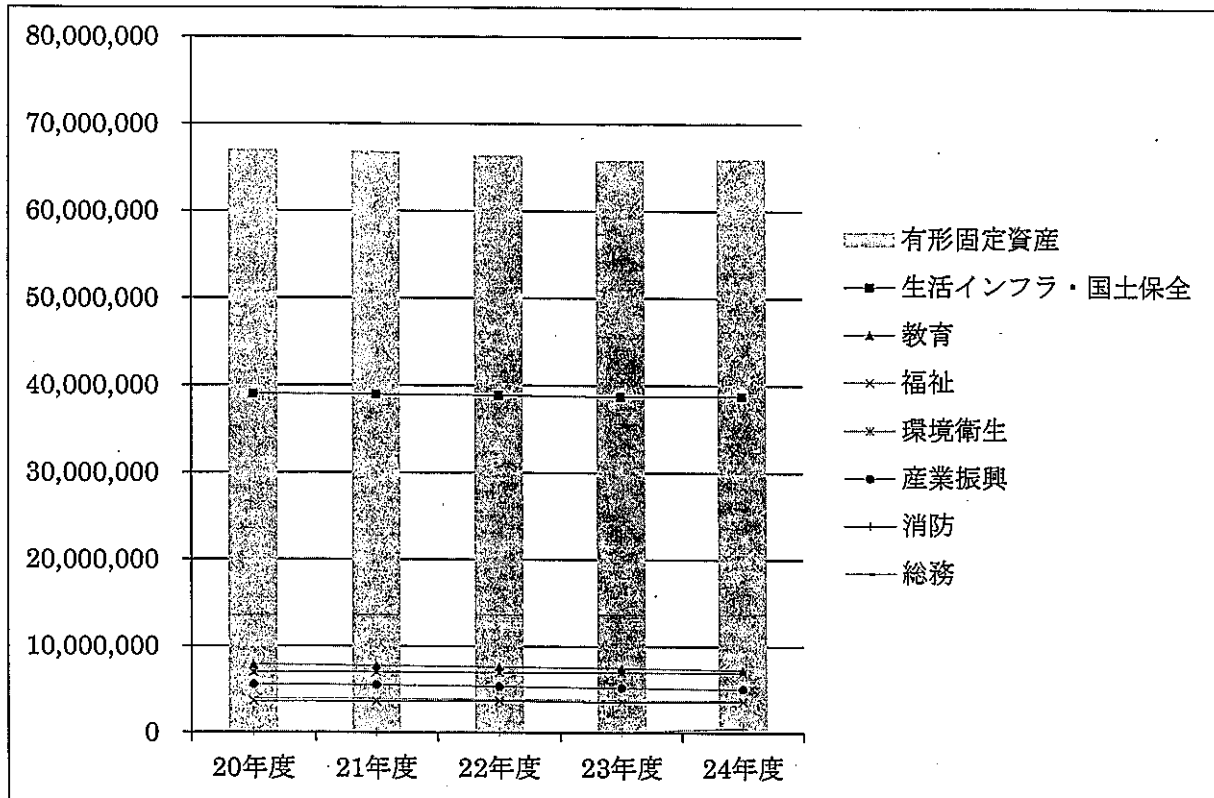
#### (2) 有形固定資産の行政目的別割合

(単位：千円)

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
生活インフラ・国土保全 <道路橋りょう・下水道等>	39,020,988	38,963,136	38,854,654	38,730,042	38,782,772
教育 <小中学校・社会教育施設等>	7,876,695	7,738,965	7,601,350	7,476,348	7,267,850
福祉<保育所等>	3,645,620	3,615,216	3,704,646	3,569,542	3,650,821
環境衛生 <水道施設・保健衛生施設等>	6,958,367	7,000,173	6,957,180	6,972,925	6,928,723
産業振興 <農林水産業・商工施設等>	5,567,418	5,508,200	5,356,603	5,194,294	5,060,123
消防<消防施設>	91,265	86,512	89,996	89,435	567,683
総務<庁舎等>	3,929,981	3,920,915	3,863,977	3,808,057	3,747,428
合計	67,090,334	66,833,117	66,428,406	65,840,643	66,005,400



(単位：千円)



各年度の有形固定資産額は、約 660 億円程度となっており、資産の約 90%超が住民サービスに供用されている資産だといえます。

有形固定資産の行政目的別割合を見ますと、有形固定資産合計額は、平成 20 年度以降毎年、公共資産を取得した額よりも有形固定資産の減価償却額が多いことにより減額となっていますが、平成 24 年度については、「津波防災まちづくり」に伴い、津波避難タワー、避難路及び防災公園等の整備による公共資産の取得額が多いことにより増加に転じています。

その中、行政目的別では、平成 22 年度の「福祉」は「障害者自立支援施設」の建設に伴い増加、平成 23 年度の「環境衛生」は、水道管の布設替に加え第 5 水源電気室新設に伴い増加、平成 24 年度の「生活インフラ・国土保全」は避難路及び北区防災公園の整備、「福祉」はすみれ保育園の建設、「消防」は津波避難タワーの整備に伴い増加しています。

特に、平成 24 年度の「消防」は、567,683 千円で前年対比約 535%の増額となっており、有形固定資産の数字から「津波防災まちづくり」が本格的にスタートしたことが分かります。

また、各年度ともに「生活インフラ・国土保全」が約 6 割を占めていることが分かります。これは、これまでの資産整備が、道路や橋りょう等の基盤整備に重点を置いてきたことによるものです。

## 2 世代間公平性

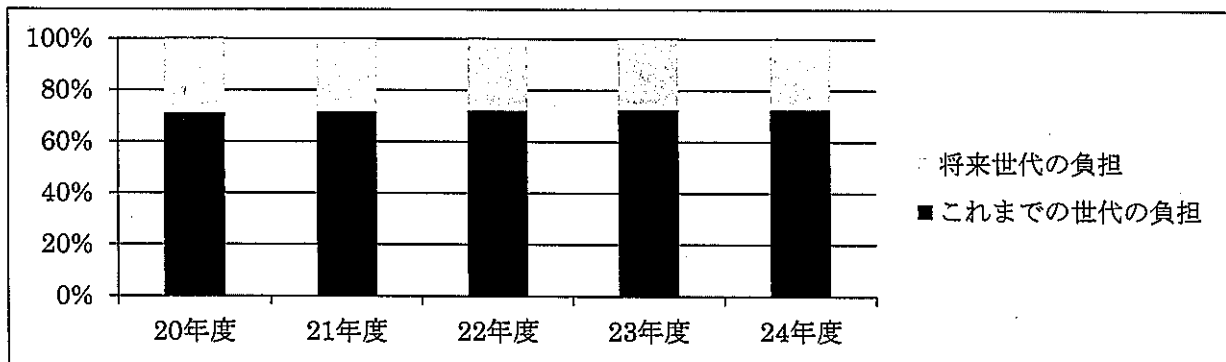
### (1) 純資産比率

純資産比率 (%) = 純資産総額 ÷ 資産総額 × 100

(単位: %・千円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
純資産比率	71.2	71.7	72.2	72.6	72.7
純資産総額	52,574,411	52,879,486	52,940,353	52,729,584	52,958,176
資産総額	73,834,650	73,708,198	73,309,319	72,580,935	72,798,222

(単位%)



### (2) 社会資本形成の世代間負担率 (将来世代負担比率)

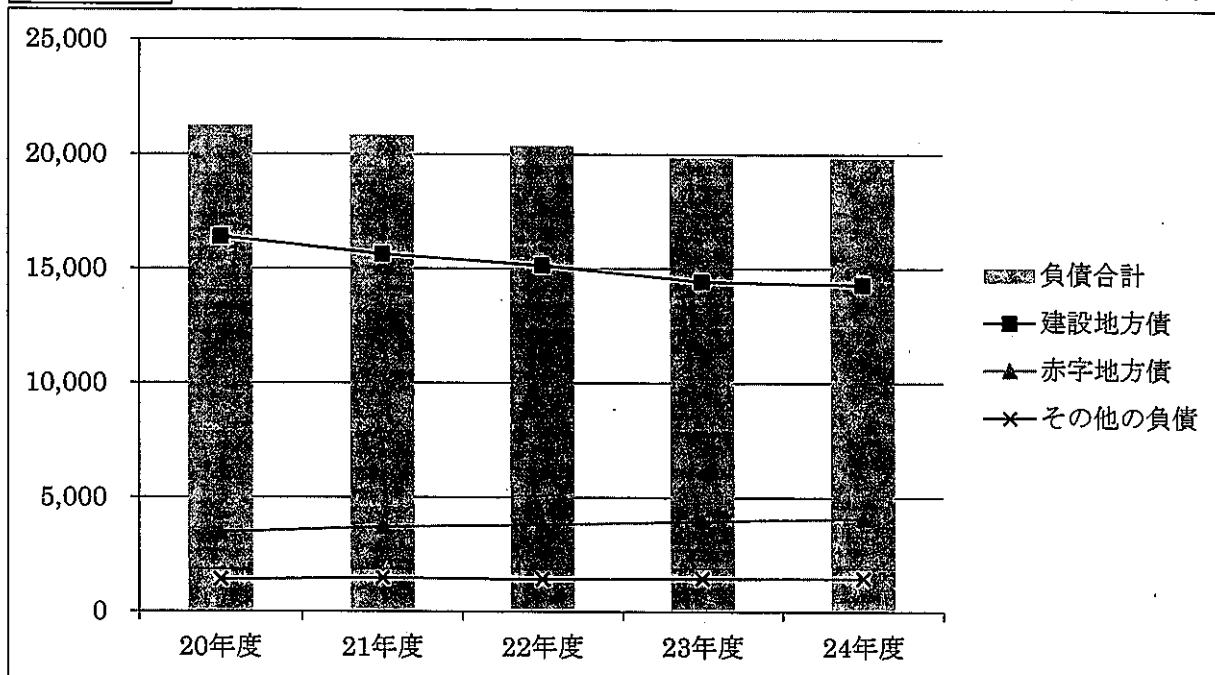
社会資本形成の世代間負担率 (将来世代負担比率) (%)

= (地方債残高 + 未払金) ÷ (公共資産合計 + 投資等合計) × 100

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
社会資本形成の世代間負担率	23.2	22.1	21.6	20.8	20.5
地方債残高 + 未払金 (将来世代の負担)	16,388,681	15,633,473	15,139,074	14,437,687	14,295,285
公共資産合計 + 投資等 (これまでの世代の負担で 将来へ引き継ぐもの)	70,709,307	70,669,210	70,162,063	69,500,128	69,646,448

## 負債の内訳

(単位：千円)



純資産比率及び社会資本形成の世代間負担率を見ますと、平成20年度以降、純資産比率が増加し、社会資本形成の世代間負担率が減少していますので、これまでの世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資産を蓄積し、また、将来世代の負担を軽くしたことが分かります。

また、社会資本形成の世代間負担率のグラフを見ますと、負債合計額及び建設地方債は平成20年度以降年々減少しています。これは、新たな借入金償還する元金を超えないようにするなど、将来世代の負担が軽減するように努めた結果といえます。

しかし、赤字地方債は年々増加しています。この起債は、地方一般財源の不足に対処するため、投資的経費以外の経費にも充てられる地方財政法第5条の特例として発行することができるもので、「赤字地方債」と呼ばれています。「赤字地方債」は、資産として将来世代に引き継ぐものを生みませんが、負債として将来世代へ送られ、貸借対照表上では、「純資産の部」中の「その他一般財源」のマイナス要因となります。

なお、「赤字地方債」の増加要因は、臨時財政対策債の借入れによるものですが、この起債は、交付税算定において、元利償還金相当額が後年度の基準財政需要額に算入されるという財政措置が講じられるため、理論上、町の財政負担は無いものとされています。

### 3 持続可能性・弾力性

#### (1) 行政コスト対税収等比率

行政コスト対税収等比率 (%)

$$= \text{経常行政コスト} \div \text{税収等 (一般財源 + 補助金等受入項目その他一般財源)} \times 100$$

(単位：%)

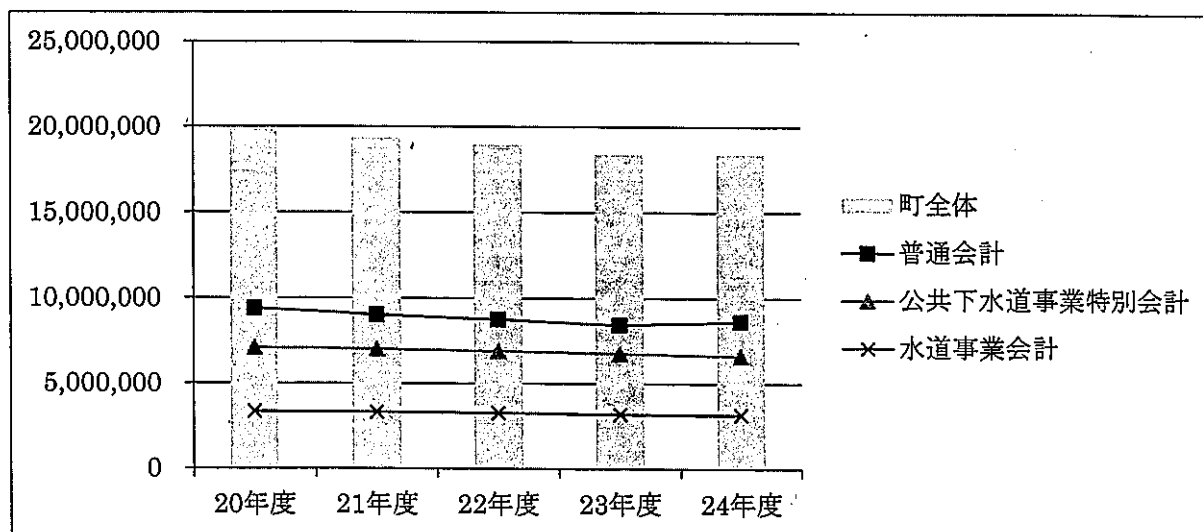
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
行政コスト対税収等比率	95.1	103.2	100.5	104.2	104.1

#### (2) 地方債残高

(単位：千円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
町全体	19,853,136	19,353,419	18,946,750	18,402,520	18,381,202
普通会計	9,402,801	9,030,938	8,762,037	8,445,894	8,635,793
公共下水道事業特別会計	7,104,952	7,010,121	6,905,342	6,765,959	6,609,757
水道事業会計	3,345,383	3,312,360	3,279,371	3,190,667	3,156,652

(単位：千円)



### (3) 地方債の償還可能年数

地方債の償還可能年数

= 地方債残高 ÷ 経常的収支額 (地方債発行額及び基金取崩額を除く。)

(単位：千円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
地方債残高	19,853,136	19,353,419	19,353,419	18,402,520	18,381,202
経常的収支額	2,001,081	1,432,809	2,026,329	1,612,549	1,573,596
償還可能年数	約 10年	約 14年	約 10年	約 12年	約 12年

「行政コスト対税込等比率」が100%を下回っている場合は、翌年度以降に引き継ぐ資産が蓄積されたか、あるいは翌年度以降へ引き継ぐ負担が軽減されたこと（若しくはその両方）を表しており、逆に、「行政コスト対税込等比率」が100%を上回っている場合は、過去から蓄積された資産が取り崩されたか、あるいは翌年度以降へ引き継ぐ負担が増加したこと（若しくはその両方）を表しています。また、比率の数値が100%から離れているほど、それらの割合が高くなります。

地方債残高を見ますと、平成20年度以降の町全体の地方債残高は減少しています。

これは、平成16年度に設定した「当該年度の借入額は当該年度の元金償還額を上回らないこと」の原則を遵守したことが、地方債残高を減少させた要因といえます。

しかし、東日本大震災の発生により、津波防災対策が喫緊の課題となり、「津波防災まちづくり」を町の最重点施策としたことから、平成24年度の普通会計の地方債残高は前年度より189,899千円増額となりました。

ただし、平成24年度に設定した「当該年度の借入額は当該年度の元金償還額を上回らないこと。ただし、社会資本整備総合交付金の都市防災総合推進事業関連の事業のための借入額を除く。」という原則に遵守したものとなっています。

また、交付税措置の高い地方債を活用しているため、後年度における財政負担を抑制し、かつ「津波防災まちづくり」を推し進めることができます。

地方債の償還可能年数は、地方債発行額及び基金取崩額により変動しますが、約12年の償還可能年数で推移しています。

(4) 基礎的財政収支 (プライマリーバランス)

基礎的財政収支

= 【収入総額－地方債発行額－（財政調整基金の取崩額＋減債基金の取崩額）】－  
 【支出総額－地方債元利償還額－（財政調整基金の積立額＋減債基金の積立額）】

(単位：千円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入総額	14,438,297	13,761,690	14,031,952	13,782,056	14,781,999
地方債発行額	△1,308,500	△748,200	△847,300	△726,926	△1,284,400
財政調整基金の取崩額 減債基金の取崩額	△170,000	△458,300	△380,000	△193,600	△398,000
計 ①	12,959,797	12,555,190	12,804,652	12,861,530	13,099,599
支出総額	14,795,348	13,563,831	13,997,503	13,745,644	14,535,115
地方債元利償還額	△1,840,928	△1,688,616	△1,676,657	△1,678,238	△1,692,602
財政調整基金の積立額 減債基金の積立額	△392,341	△51,803	△756,367	△139,261	△241,021
計 ②	12,562,079	11,823,412	11,564,479	11,928,145	12,601,492
基礎的財政収支 ①－②	397,718	731,778	1,240,173	933,385	498,107

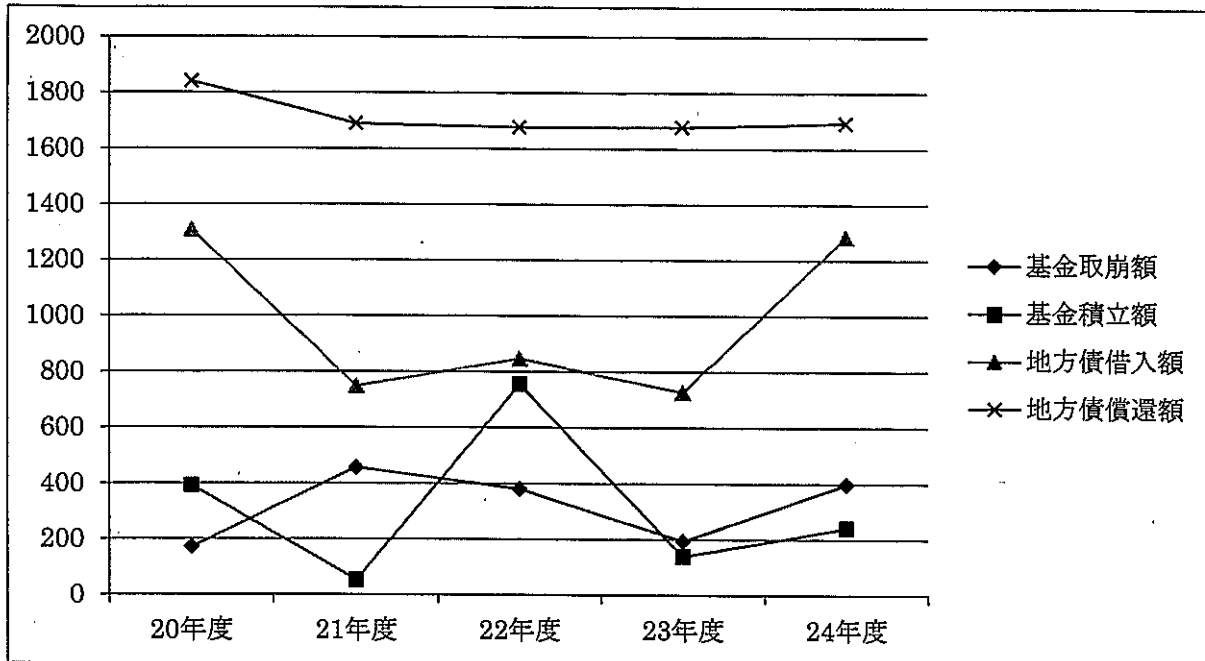
(単位：千円)

会計別基礎的財政収支					
会計名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
普通会計	570,185	185,529	705,308	497,374	13,195
国民健康保険事業	△17,227	56,979	6,970	1,309	△39,212
老人保健事業	△26,916	△3,467	△481	—	—
後期高齢者医療事業	3,259	△3,171	6,369	△488	1,096
介護保険事業	△1,740	15,503	11,993	△17,436	9,703
水道事業	△428,084	176,025	201,769	129,669	177,834
公共下水道事業	298,241	304,380	308,245	322,957	335,491

※老人保健事業特別会計は平成22年度末で廃止

地方債の借入額・償還額、基金の取崩額・積立額

(単位：千円)



基礎的財政収支（プライマリーバランス）とは、地方債関連等の収入・支出を除いた財政収支をいい、地方債の利払いと償還額を除いた支出と、地方債発行額を除いた収入のバランスをみるものです。

プライマリーバランスがマイナス（赤字）の場合は、将来負担が財政規模に比べ増大し、プラス（黒字）になれば、新たな借金は過去の借金返済に充てられるため、財政が健全であることを示しています。

基礎的財政収支は、各年度において、財政が健全であることを示すプラス表示（黒字）となっています。これは、地方債発行や基金の取り崩しに頼らず、その年の収入でその年の支出が賄えていることを表しています。

平成22年度まで順調に基礎的財政収支額は伸びていましたが、「津波防災まちづくり」に伴い、地方債発行額及び基金取崩額が増加しているため、平成23年度から減額に転じています。

## 4 効率性

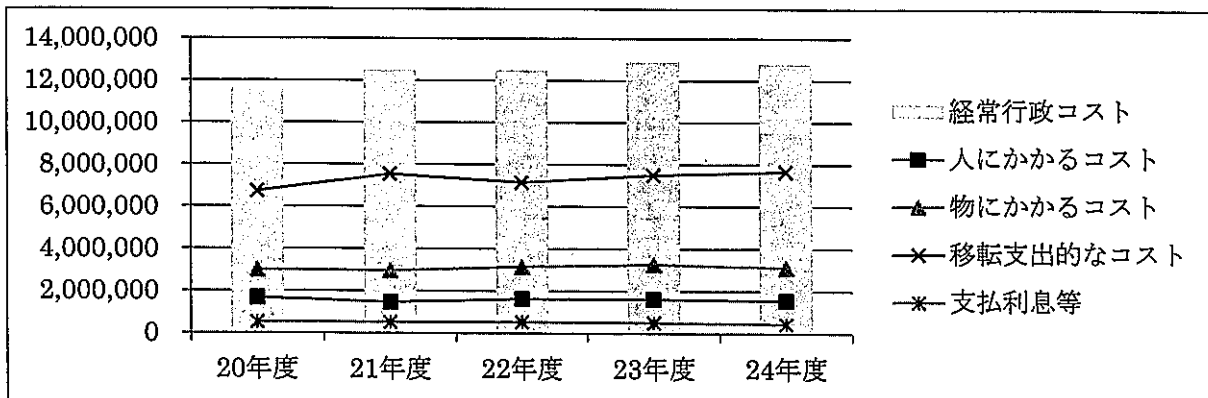
### (1) 行政コスト計算書

【性質別】

(単位：千円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
1	(1) 人件費	1,342,742	1,343,186	1,315,736	1,365,422	1,366,743
	(2) 退職手当等引当金 繰入等	248,995	41,774	237,685	178,754	108,219
	(3) 賞与引当金繰入額	85,017	85,321	80,299	79,670	83,420
	小計	1,676,754	1,470,281	1,633,720	1,623,846	1,558,382
2	(1) 物件費	1,355,808	1,279,368	1,433,553	1,553,948	1,416,510
	(2) 維持補修費	46,488	47,089	71,069	65,014	51,650
	(3) 減価償却費	1,601,199	1,633,079	1,641,483	1,644,930	1,650,604
	小計	3,003,495	2,959,536	3,146,105	3,263,892	3,118,764
3	(1) 社会保障給付	3,431,423	3,444,510	4,041,045	4,237,228	4,262,729
	(2) 補助金等	3,059,024	3,884,497	2,823,100	2,941,383	2,967,996
	(3) 他会計等への支出額	81,658	73,024	133,060	76,695	85,055
	(4) 他団体への公共資産 整備補助金等	154,251	145,122	156,062	250,663	353,380
	小計	6,726,356	7,547,153	7,153,267	7,505,969	7,669,160
4	(1) 支払利息	453,973	440,698	422,688	407,082	386,884
	(2) 回収不能見込計上額	49,758	56,152	82,623	11,923	7,657
	(3) その他行政コスト	23,041	26,432	32,674	88,153	52,824
	小計	526,772	523,282	537,985	507,158	447,365
経常行政コスト	11,933,377	12,500,252	12,471,077	12,900,865	12,793,671	

(単位：千円)



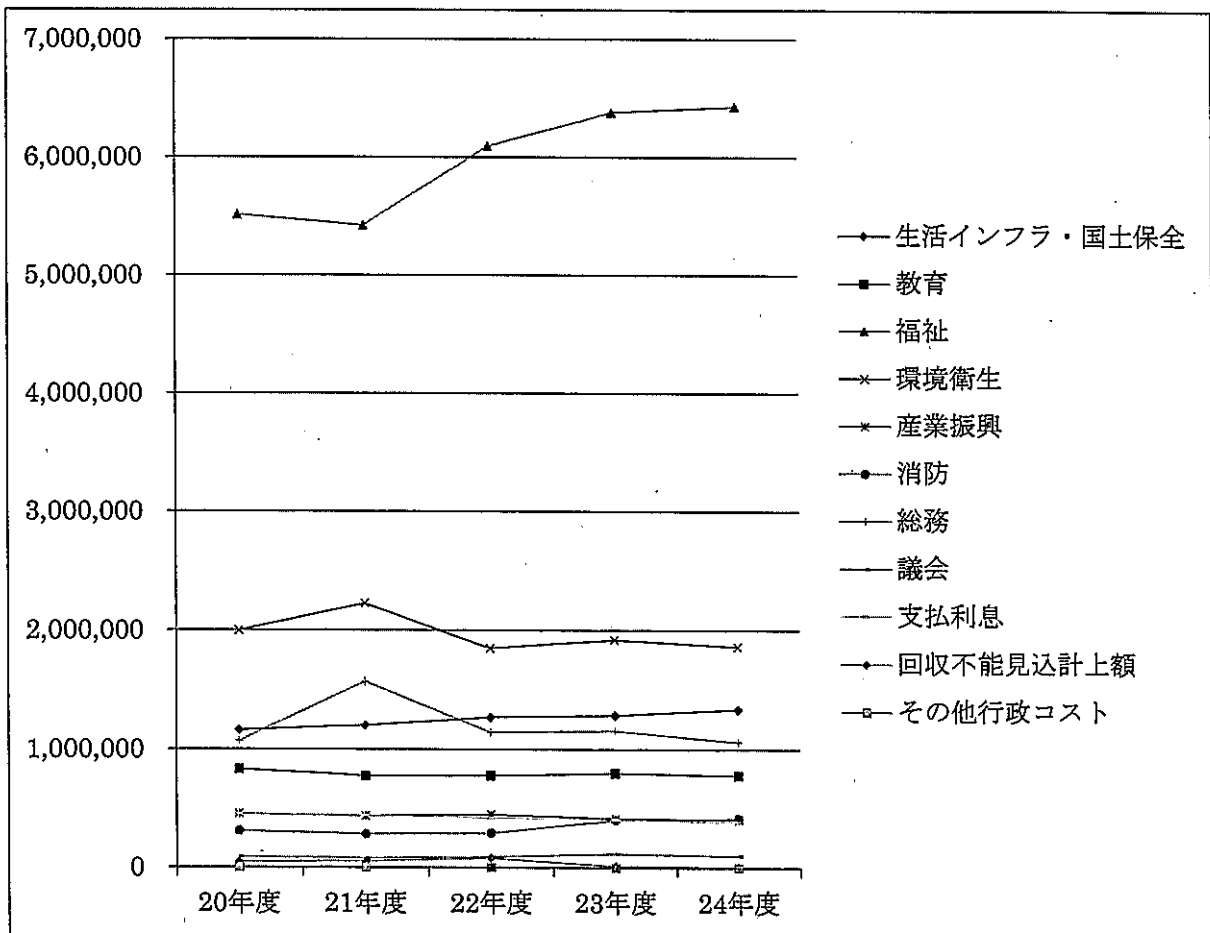


【目的別】

(単位：千円)

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
生活インフラ・国土保全	1,162,130	1,202,340	1,269,200	1,286,432	1,336,343
教育	832,151	776,948	777,762	801,038	780,213
福祉	5,511,121	5,422,246	6,094,025	6,380,151	6,430,819
環境衛生	1,997,938	2,226,436	1,848,968	1,921,187	1,862,584
産業振興	454,165	437,391	448,812	416,113	407,461
消防	310,412	283,861	291,063	403,097	416,938
総務	1,070,567	1,569,564	1,143,714	1,155,683	1,063,593
議会	91,162	82,700	92,222	118,159	101,179
支払利息	453,973	440,698	422,688	407,082	386,884
回収不能見込計上額	49,758	56,152	82,623	11,923	7,657
その他行政コスト	0	1,916	0	0	0

(単位：千円)



各年度別に増減内容を見ていきますと、平成 21 年度の経常行政コストは、平成 20 年度と比べ 566,875 千円増加しています。増加の要因として、平成 21 年度に実施された「定額給付金」によるもので、性質別では「社会保障給付等にかかるコスト」、目的別では「総務」の伸びが顕著となっております。

平成 22 年度の経常行政コストは、平成 21 年度と比べ 29,175 千円減少となっております。減少の要因として、平成 21 年度に実施された「定額給付金」に関わるサービスがなくなったこと、また、目的別で「環境衛生」が大きく減少となっているのは、公設民営化形態に移行した榛原総合病院への財政支援分の負担金の減額によるものです。

平成 23 年度の経常行政コストは、平成 22 年度に比べ 429,788 千円増加しています。増加の要因として、津波ハザードマップの作成と戸別受信機の配布によるもので、性質別では「物件費」、目的別では「消防」が増加しています。

平成 24 年度の経常行政コストは、平成 23 年度に比べ 107,194 千円減少となっております。減少の要因として、吉田町牧之原市広域施設組合への負担金が平成 8 年度借入債の償還終了により、性質別では「補助金等」、目的別では「環境衛生」が減額となっております。

行政コスト計算書を見ますと、経常行政コストは、若干の増減はあるものの、ほぼ横ばい状態となっておりますが、性質別では社会保障給付、目的別では福祉が年々増加傾向にあります。

これは、社会保障制度の充実や高齢化が進んでいること等により、当町も例外でなく、社会保障給付費が増加していることを表しています。

## 5 自立性

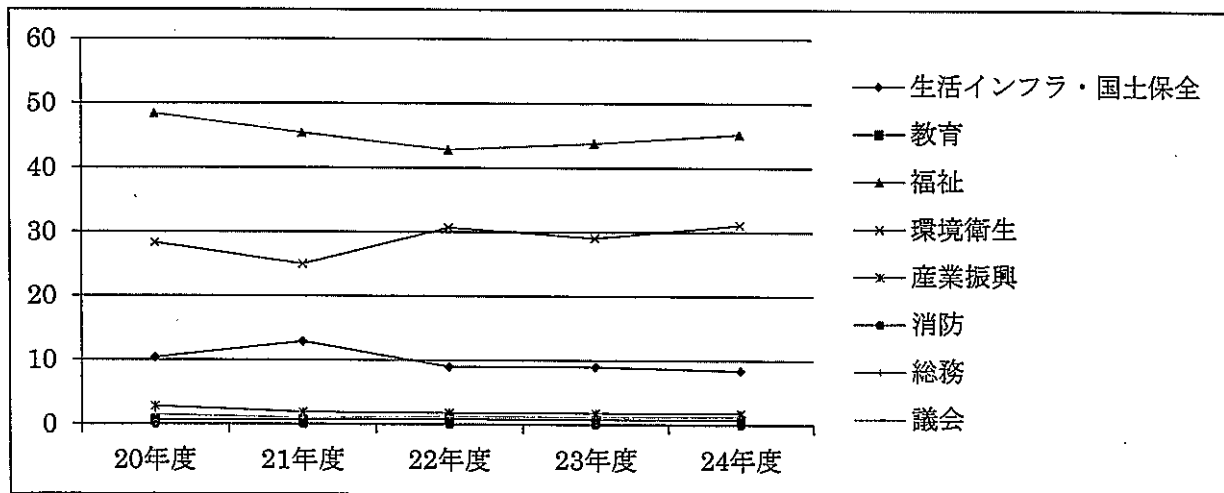
### (1) 受益者負担比率

受益者負担比率 (%) = 経常収益 ÷ 経常経費 × 100

(単位：%)

目的別項目	受益者負担率				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
生活インフラ・国土保全	10.4	12.9	9.0	9.0	8.4
教育	0.7	0.7	0.9	0.8	0.8
福祉	48.4	45.4	42.8	43.8	45.2
環境衛生	28.3	25.0	30.7	29.1	29.2
産業振興	2.8	1.9	1.8	1.8	1.8
消防	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総務	1.5	1.0	1.3	1.2	1.3
議会	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全 体	28.6	25.8	26.8	27.3	28.3

(単位：%)



受益者負担比率は、経常行政コストに対して、施設利用料などの行政サービスで得られた受益者負担で直接賄っている比率を表しています。使用料、手数料については、受益者負担の原則に立った適正化や見直しを図っているため、受益者負担比率は微増となっています。しかし、受益者負担で賄いきれない支出は一般財源で賄っているため、より一層の見直しを図ることが必要となっています。

おわりに

平成25年3月31日時点における平成23年度決算に係る財務書類の作成状況については、作成済又は作成中の地方公共団体が全団体の96%となっており、着実に作成が進んでいます。また、活用状況については、他の地方公共団体との比較や地方公共団体の経年比較等の財務状況の分析、住民等に対する財務状況の説明に財務書類を活用しているが、行政評価や公共施設の老朽化対策等に係る資産管理等の個別的な活用は、一部の地方公共団体に留まっているところであり、当町も例外ではありません。

現在、地方公共団体における財務書類の作成方法は、基準モデル、総務省方式改訂モデルのほかに、東京都や大阪府等の方式があり、それぞれの作成方式、評価及び課題があり、こうした現状を踏まえ、現行の現金主義会計による予算・決算制度を前提とした上で、財務報告におけるあるべき基準のあり方等について、今後の新地方公会の推進に関する研究会において議論が進められ、平成25年8月に中間とりまとめが報告されました。

今後、研究会では、最終報告である平成26年4月を目処に、地方公共団体における財務書類の作成基準、固定資産台帳の整備指針及び複式簿記導入に向けた具体的な進め方等について検討していくこととなりました。

当町においても、作成した財務書類を行政評価や公共施設の老朽化対策等に係る資産管理等に活用するためには、研究会で検討される作成基準、固定資産台帳の整備及び複式簿記の導入が重要となるため、今後の研究会の動向を注視していく必要があります。